

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079800233
法人名	有限会社 あきの
事業所名	グループホーム ひなたの家
所在地 (電話番号)	福岡県田川郡福智町弁城2482-1 (電話) 0947 - 22-0535

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4 - 6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年7月7日	評価確定日	平成21年8月19日

【情報提供票より】(平成21年6月12日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	10人, 非常勤 4人, 常勤換算 11.5人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋瓦葺造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費)5,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

(4)利用者の概要(6月12日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	9 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	2 名		
年齢	平均 87.4 歳	最低	77 歳	最高	99 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	方城診療所
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームひなたの家は、福智山の麓にある豊かな自然環境に恵まれた、田園風景が残る閑静な住宅地に位置している。共用空間から眺めることができる田や畑は、農家を営んできた入居者が多く、これまでの暮らしの継続といった点で大きな魅力となっている。ホームは、入居者がこれまでの暮らしの中での地域行事や漬物づくりなど継続して楽しんでいただけるように支援している。開設後4年目を迎え、地域の役員の方とも良好な関係を築くことができ、地域との関係も年々高まってきている。ホームの理念である「目配り・気配り・心配り」に日々取り組み、暮らしの安心とやすらぎを提供できるように努めている。今後、運営者・管理者・職員は、更なる個別ケアの充実を目指し、自分らしい暮らしの実現を更に高めていきたいと考えている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前年度は、開設当初からの課題であった地域交流の充実が挙がっていたが、地域の役員の方の協力もあり、協力関係が深まっている。また、同業者との交流も課題ではあったが、行政の主導により地域のグループホームとの協議会も発足し、今後は勉強会などをはじめ、ネットワーク化が進む段階にあり、大いに期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員に外部評価の理解を育むためにスタッフ会議で取り上げ、意見交換を行っている。自己評価を通じて外部評価の意義が理解できるように取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、概ね2~4ヶ月に1回の開催となっており、今後は定期的に2ヶ月に1回、開催していきたいと考えている。会議は、地域情報を把握する機会としてとらえ、地域行事やイベントなどは、できるだけ参加できるように取り組んでいる。今後は、地域へ向けて認知症の理解を育む情報発信など期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族の意見・苦情・不安は、直接、運営者・管理者・職員に話していただくことが多く、グループホームの問題として受けとめ、運営に反映していくように努めている。開設4年目を迎え、ホームの運営も安定期を迎え、運営面で家族の意見を更に活かしていくために「家族会」も検討していきたいと考えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の役員と良好な関係を築いてきた経緯により、今後は地域との交流を更に高めていきたいと考えており、地域の祭りや文化祭などをはじめ、積極的に参加することは勿論のこと、保育園や小学校などとの関係も構築し、地域貢献を視野に入れた交流を図っていききたいと考えている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「老人は永年にわたり、社会の進展に寄与してきた人生の先輩である。健全に安らかな生活が保障されるものである。豊かな自然環境の中で地域との交流を行い、やさしい生活空間の中で、目配り・気配り・心配りを大切に楽しく過ごして頂く事である。」を、地域密着型サービスの役割を担う、独自の理念として掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実現に向けて、入居者が何を求めているかを追求し、これまでのその人らしい暮らしの継続へ向け、運営者・管理者・職員と共に月1回の会議などで意見交換を行い、理念の共有化を図り取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の役員と良好な関係を築いてきた経緯により、今後は地域との交流を更に高めていきたいと考えており、地域の祭りや文化祭などをはじめとして積極的に参加することは勿論のこと、保育園や小学校などとの関係も構築し、地域貢献を視野に入れた交流を図っていききたいと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者・職員は、月1回のスタッフ会議にて自己評価・外部評価をテーマに話し合い、評価の意義を理解しており、指摘事項は改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、概ね2~4ヶ月に1回の開催となっており、今後は定期的に2ヶ月に1回、開催していきたいと考えている。会議は、地域情報を把握する機会としてとらえ、地域行事やイベントなどは、できるだけ参加できるように取り組んでいる。今後は、地域へ向けて認知症の理解を育む情報発信などにも期待したい。		家族・地域の方々や行政担当者の協力を得て、運営推進会議の定期的な開催(概ね2ヶ月に1回)に向けての具体的な取り組みに期待したい。

グループホーム ひなたの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	地域のグループホーム事業者のニーズを受け、福智町にはグループホーム協議会が発足している。定期的に1ヶ月に1回、会合を持つことになっており、行政との情報交換の機会としても活かし、連携を高めていきたいと考えている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	現状として権利擁護に関する制度について、入居者・家族への情報提供を行なう機会がなく、資料等についても不十分な状況である。日常生活自立支援事業や成年後見制度について、家族や地域に向けて情報発信を行い、必要となった場合に支援できるよう職員育成も望まれる。		関係機関からの情報や資料の収集、また職員の知識を深める事により、必要となった場合には活用できる支援体制が求められる。
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	毎月「ひなただより」を発行し、行事や外出、誕生日等について、写真とともに報告している。料金の支払い時には、日々の暮らし振りや健康状態、金銭管理について報告を行なっている。家族にとって分かりやすい報告となるよう努めている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	家族の意見・苦情・不安は、直接、運営者・管理者・職員に話していただくことが多く、グループホームの問題として受けとめ、運営に反映していくように努めている。開設4年目となりホームも安定期を迎え、運営面で家族の意見を更に活かしていくために「家族会」なども検討していきたいと考えている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	入居者と職員のなじみの関係に配慮し、離職などの際には、入居者のダメージを防ぐために運営者・管理者がサポートできる体制を取っている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	採用にあたっては年齢や性別にとらわれず、本人の「やる気」を重視している。職員が気持ちよく働けるように個々の能力を把握し、皆勤手当て・賞与などに反映させている。また親睦会などにより、ストレスをためないように支援している。今後は研修の充実を期待したい。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム ひなたの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	日々のケアやサービス提供の場面で、運営者・管理者・職員それぞれが気を配り、入居者の人権を尊重することを基本として行動することに努めている。今後は、入居者の人権を勉強会のテーマとして設定するなど期待したい。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	計画的な研修計画はないが、毎月1回のユニット会議(3ヶ月に1回、全体会議を開催)の際に勉強会を開催している。今後は、職員のスキルアップを図るために、外部研修の情報収集を含め、職員の希望や能力に応じた研修参加や勉強会を実施していくことが求められる。		今後は、福智町のグループホーム協議会が発足し、グループホーム間の情報交換はもとより、勉強会の開催なども期待できるとのこと。是非、単独のグループホームではできない職員の研修など、積極的に実施に向けて働きかけ、職員の研修充実を図っていくことを期待したい。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	地域のグループホーム事業者のニーズを受け、福智町にグループホーム協議会が発足している。定期的に1ヶ月に1回、会合を持つことになっており、グループホーム間の情報交換の機会として活かし、ネットワークを高めていくことが期待される。今後は、地域における認知症の理解を高めていくために、地域住民に向けての情報発信なども期待したい。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	見学後、即入居となるケースも多い。その際には、本人と入居者・職員との関係に配慮しながら、徐々に慣れ親しんでいただくように努めている。また、本人と家族とのコミュニケーションを図りながら、生活歴や習慣を把握するように努めている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	調査当日は、各ユニットで食事の下準備を行っており、男性の入居者が人参を上手に包丁で刻んでいた。談笑しながら、和やかに下準備を行い、入居者それぞれが役割を持っていた。季節の漬物づくりなども行っている。今後は、更に入居者の智恵と経験を暮らしの中で活かしていきたいと考えている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム ひなたの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	センター方式を採用し、日々の変化や気づきを把握し、本人の思いや希望に応じた暮らしができるように取り組んでいる。今後はアセスメント情報の更新等により、更に本人の全体像の把握に向けて、新たな取り組みに期待したい。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族の意向を大切にしながら、職員間の話し合いが行われ、また主治医の意見を反映しながら介護計画が作成されている。介護計画とは別に日々の入居者の疾病管理を行うために看護師による「健康状態観察項目」が作成されている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	日々の様子や状態変化などは、業務日誌やケア記録に記入し、その情報を職員が共有しながら介護計画を見直している。状況の変化があった場合には、本人・家族・職員・医師等の意見を収集し、随時見直している。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	個別のケアやサービス提供を目指し、これまでの暮らしで公民館のミニデイサービス利用者には、引き続き受けられるように支援している。ホームとして特に力を入れて取り組んでいるのは外出支援であり、天気や状態が良い日は意向にそって個別に外出を楽しんでいただけるよう取り組んでいる。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	本人・家族の意向に沿った、かかりつけ医への受診を支援している。医療連携体制により定期的な訪問診療を受けられる体制があり、適切な医療が受けられるように支援している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム ひなたの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化に向けての「ご利用者の健康管理及び医療機関との連携体制について」を定め、その中に「ターミナルケアについて」「重度化した場合の対応について」の内容を明記している。本人の意向を大切に、家族との話し合いを重ねながら、方針を共有している。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	記録や個人情報は事務所にて管理・保管している。運営者・管理者・職員は、日々の関わりの中で、入居者一人ひとりの尊厳を損なわない言葉掛けや対応を心がけ、常に意識して取り組んでいる。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	日々のコミュニケーションを大切に、入居者一人ひとりの希望や意向にそった暮らしができるように取り組み、特に外出は気分転換になるので個別の意向を尊重している。本人が望む、お酒・飲み物・おやつ・煙草などについても、日々の暮らしの中で楽しめるように支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食事の下準備をできる方は手伝っていただき、もやしのヒゲ取りや季節の漬物など職員と共に分担して行っている。外食も楽しみにしていただけるように支援している。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	週2～3回を目安に入浴できるように取り組んでいる。基本的に入居者本意に入浴を楽しんでいただけるように取り組んでいる。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム ひなたの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者の楽しみとして個別の外出を支援し、趣味や役割として活け花・洗濯物たたみ・畑づくり・花の水やり・カラオケなどを行っていただいている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	ホーム周辺が豊かな自然に囲まれ、散歩コースとして最適な環境を有しているため、日課として散歩を楽しむ入居者が多い。また、日常的に個別の外出支援も力を入れている。外食は定期的に入居者の楽しみとして支援している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	玄関には鳥のさえずりの音で出入りが感知できるセンサーを採用しており、日中は鍵をかけないケアを実践している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	廊下の壁に避難経路図を貼り、職員が速やかに誘導できるように取り組んでいる。年2回、避難訓練を計画しており、地域の役員に協力を依頼している。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	食材業者の栄養士による献立により、栄養バランスの取れた食事を提供し、栄養摂取量や栄養価を把握している。日々の摂取量はチェック表にて食事量や水分量を確認し、必要な摂取量を確保できるように取り組んでいる。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム ひなたの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間は対面式のキッチンがあり、畳の空間など各ユニットで独自の工夫があり、入居者が田園風景を見ながら、ゆったりと過ごすことができるようになっている。壁には季節に応じた入居者手づくりのカレンダーや貼り絵があり、暖かい雰囲気がある。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室の入り口は、木材を使用した表札がそれぞれ掛けられ、入居者の住まいとしての工夫がある。居室は、写真やこれまでの暮らしの品々が持ち込まれ、個性豊かな居室となっており、居心地よく過ごせる空間となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			